OSC2026 Tokyo/Fall 出展レポート

2026年10月17日（土）

独立行政法人
情報処理推進機構　普及啓発・振興部　人材開発グループ

© Innovation Platform Agency, Japan（IPA）

1. イベント概要

オープンソースカンファレンス2026 Tokyo/Fall（OSC2026 Tokyo/Fall）は、オープンソースコミュニティや企業・団体による展示を通じて、技術や活動の情報共有を行う技術イベントとして開催されました。
当日は、展示ブースを中心に多くの来場者が集まりました。

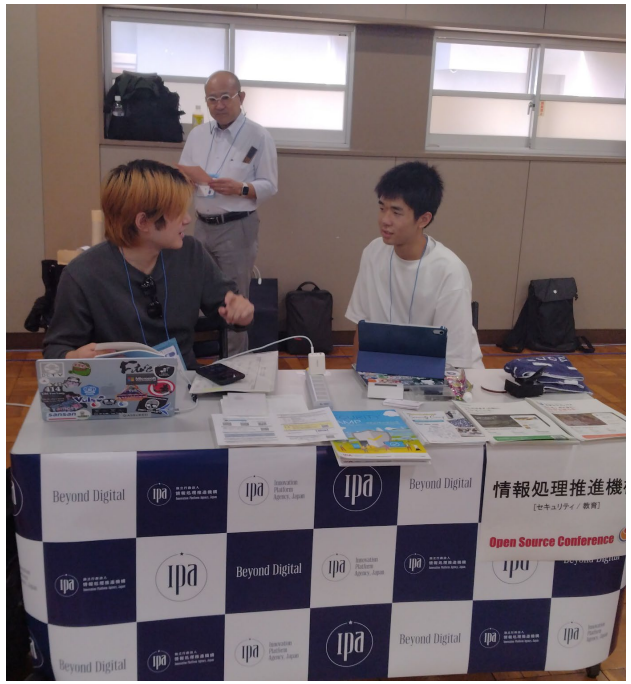
- 開催日：2026年10月17日（土）
- 会場：東京都立産業貿易センター台東館
- 内容：オープンソース関連の展示・情報提供
- 主催：オープンソースカンファレンス実行委員会
- 来場者数：約400名（出展者・関係者　約170名含む）
- 事前参加登録数：280名
- 展示ブース：スポンサー出展　　：23団体
  コミュニティ出展　：54団体
- 主催者HP：https://event.ospn.jp/osc2026-fall/



© Innovation Platform Agency, Japan（IPA）

2. 出展内容

当ブースでは、**修了生による成果物の展示**を中心に、**セキュリティ・キャンプ事業**の活動紹介を行いました。
また、来場者との対話を重視し、事業内容やセキュリティ・キャンプ修了後の活動について、ブースにて直接説明を実施しました。







© Innovation Platform Agency, Japan（IPA）

3. 来場者の反応

学生、若手エンジニア、教育関係者、企業技術者など幅広い層がブースを訪れ、関心の高さがうかがえました。



特に以下の点に関心が集まりました。

- セキュリティ・キャンプの教育内容
- 修了生の活動実績
- 若手人材育成への取り組み

また、来場者からは、

- 「実践的な学習機会として魅力的」
- 「学生に紹介したい」
- 「修了生が継続的に活動している点が素晴らしい」
- 「セキュリティに関して大人にも必要な事業だと思う」

といった前向きな意見が寄せられ、事業への理解促進につながりました。

© Innovation Platform Agency, Japan（IPA）

４．成果

今回の出展を通じて、セキュリティ・キャンプ事業を多くの来場者に周知できたほか、教育機関や技術コミュニティ関係者との新たな接点を得ることができました。

修了生による説明やデモ、研究や成果物の展示を通じて、キャンプで培った学びがその後の活動や継続的な自己研鑽に繋がっている事を来場者へ具体的に示すことができました。

また、修了生自身がセキュリティ・キャンプ事業の紹介を行うことで、キャンプ参加者の視点から事業の魅力や学びの成果をより具体的に伝える機会となりました。

修了生からは、展示者として来場者へ説明する経験が大きな学びになったとの声もあり、他者へ分かりやすく説明する能力や、自分の作品を広く発信する力を高める機会としても意義のある取り組みとなりました。

展示時間全体を通じて多くの来場者がブースへの立ち寄り、活発な質問や意見交換が行われるなど、来場者のセキュリティ・キャンプ事業への関心の高さを確認できました。

イベント全体も盛況で、多くの技術者・コミュニティ関係者が参加していました。

© Innovation Platform Agency, Japan（IPA）

5．展示内容紹介（1）世界モデルの機能をモジュール化した認知アーキテクチャ

出展：Open Source Conference 2026 Tokyo/Fall　｜　出展者：佐藤 直哉

【展示テーマ】

世界モデルを単一のブラックボックスとして扱うのではなく、認知・予測・シミュレーション・意思決定・実行の機能に分解し、各モジュールを連携させるアーキテクチャを紹介しました。

【着想と目的】

環境を「認識する」だけでなく、将来の状態を見通し、複数の選択肢を検討して行動へつなぐ仕組みに着目しました。各機能の役割と情報の受け渡しを可視化し、システム全体の動きを直感的に理解できる展示を目指しました。

【システムの構成と動作】

① 認知：外部の環境や操作結果を観測し、現在の状態を把握します。
② 予測・シミュレーション：現在の状態を基に、起こり得る複数の未来や行動の結果を検討します。
③ 意思決定：候補となる行動を比較し、次に取る行動を選択します。
④ 実行・フィードバック：選択した行動を環境に反映し、その変化を次の認知・予測へつなげます。

【会場での展示デモ】

来場者が仮想環境を操作すると、その変化をシステムが観測します。画面上で認知状態、複数の未来予測、行動の選択、実行後の環境更新を順に確認できる構成とし、「観測→予測→判断→行動→再観測」という一連の循環を動的に示しました。

【展示のポイント】

個々の機能を独立したモジュールとして捉えつつ、それらの接続によって知能的な振る舞いが生まれる過程を説明しました。環境への働きかけと、その結果を次の判断につなぐフィードバックの関係を重視しています。

© Innovation Platform Agency, Japan（IPA）

世界モデルの機能をモジュール化した認知アーキテクチャ

Open Source Conference 2026 Tokyo/Fall｜展示内容の概要

認知・予測・シミュレーション・意思決定・実行を連携させ、「世界の変化に応じて行動する」仕組みを探るプロトタイプ。

01 認知

外部の状態や変化を取得

02 予測

起こり得る未来を推定

03 比較・判断

候補の結果を評価

04 実行

行動で環境へ働きかける

展示のポイント

- 来場者が環境を操作すると、認知状態が変化する
- 複数の未来を比較し、選択した行動が環境に反映される
- 実行結果を次の予測・判断へつなぐフィードバックを可視化

出展者：佐藤 直哉 ｜ モジュール連携による世界モデル機能の再現・検証

展示の概要

Elymo - 食事条件と料理の情報を照合するサービス
食物アレルギーやヴィーガン、宗教上の食事制限などに対応した情報確認を支援します。利用者が食事条件を登録し、店舗のQRコードを読み取ると、店舗が登録した料理の情報との照合結果を確認できます。

みまもりコンパス - 発見者と家族をつなぐ見守りサービス
認知症のある方の衣服や持ち物に付けたQR・NFCタグから、発見者が状況や現在地を報告できます。家族との連絡を通じて、早期の身元確認と引き渡しを支援します。

展示資料



elymo-app.com



mimamori-compass.org

展示を通して

来場者にサービスの概要や開発背景を紹介しました。食物アレルギーのある方から日常の飲食店選びについて意見を伺うなど、利用者の視点に触れる機会となりました。

© Innovation Platform Agency, Japan（IPA）

当日の様子

















© Innovation Platform Agency, Japan（IPA）